

常葉学園大 ○佐藤宏子

お茶女大家政 佐野志津子 袖井孝子

目的：共同性の高い農村三世代家族の母と妻の人間関係について、生活満足度、価値観や生活方針の一致・不一致、調整役、相談相手、理解者が誰かなどから明らかにする。また、完全三世代家族と父欠損三世代家族、夫方同居と妻方同居の相違についても述べる。

方法：第一報に同じ

結果：①生活満足度が最も高いのは、岡部町出身・出生家族が農家・お年寄りとの同居経験があり、現在は第一種兼業農家を営む50・60代母である。20・30代妻の満足度は最も低く、「近隣関係」「親族関係」については70・80代母の満足度が最も高い。②生活全般の満足度において妻が「非常に満足」ならば97%の母が満足しているが、母が「非常に満足」であっても妻の15%が不満を感じている。とくに「余暇生活」「世帯収入」で両者のズレが大きい。③妻の出生家族が農家、お年寄りとの同居経験があり、現在専業農家である場合、母と妻の一致度は高水準で、ズレが小さい。④「祖先祭祀」「しきたり・習慣」「親族関係」「近隣関係」など伝統的で地域性の高い項目では、母・妻ともに岡部町出身の組み合わせの一致度が極めて高い。しかし「孫のしつけ」「休日の過ごし方」では双方の認識のズレが大きく、短期間のうちに岡部町の人々の生活観・価値観が大きく変化したことを示している。⑤夫方同居、妻方同居にかかわらず相談相手、頼りにしている人、理解者として、母は父、妻は夫と回答する割合が最も高い。父死亡三世代家族で母は妻、妻は子の成長に伴って子どもの割合が高まる。父の死亡により母から妻への情緒的依存は高まるが、妻から母へのそれは薄い。